



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

12小預言者の一人ハガイの活動した時代は、ユダの人々がバビロン捕囚から解放され、廃墟と化していたエルサレムにようやく帰ってきたその頃のことである。この短い書には、日付が付されており、そこから知り得ることは、「彼が紀元前520年(ダレイオス王の第2年)に5ヶ月にわたって預言者であつたということ」(現代聖書註解)である。また、その名は、同時代の預言者ゼカリヤとともに、エズラ記に、「ユダとエルサレムにいるユダの人々に向かってその保護者であるイスラエルの神の名によって預言した」(エズラ5:1)と記されている。

瞑想

彼は、まさに破壊し尽くされた神殿の再建をするよう命じるハガイは、特殊な預言者と言えるのだろうか。しかし、それが、ただ単に、木を組み、石を積み上げる、神殿の再建についてだけ語っているとするならば、それは誤解である。むしろハガイは、その建築にあたる人々種を多く蒔いても、取り入れは少ない。食べても、満足することなく、飲んでも、酔うことがない。衣服を重ねても、温まることなく、金をかせぐ者がかせいでも、穴の空いた袋に入れるようなものだ。

主幹牧師 榎本 恵

ハガイ1:1-6

いのか」(1:4)と厳しく主の言葉を告げるのだ。「種を多く蒔いても、取り入れは少ない。食べても、満足することなく、飲んでも、酔うことがない。衣服を重ねても、温まることなく、金をかせぐ者がかせいでも、穴の空いた袋に入れるようなものだ」(1:6)。

よやく故郷に帰り着き、新たな生活を始めようとしている矢先に、主の神殿を再建するなど、どうして考えられよう。毎日の生活に追われ、経済的にも困窮している人々にとって、これほどの酷な言葉はない。けれども、神は、ハガイの口を通して、語られるのだ。「お前たちは、自分の歩む道に心を留めよ」(1:5,7)と。そして「この新しい神殿の栄光は昔の神殿にまさると」(2:9)。

友よ、私たちの信仰は、「衣食足りて礼節を知る」ではない。そうではなく「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」(マタイ6:33)なのである。あなたの道は、どこへ向かっていくのか。呪いか、それとも祝福か。そのことを見極めていこうよ。

池谷治朗兄を訪ねて②

6月27日

(まさに、主に突き動かされ、一気に語られた池谷兄のお証)

神様はそれこそ沈黙されることがある。本当に沈黙されて、どうしてと思うことがあるかもしれないけど、そこでも神様は本當にいてくれる。沈黙するというのは気付きなさいということもあるのかなということに最近私は気がして、神様は沈黙することがあるから私たちはそこにやっぱり気付くことが大事なんです。沈黙がいかにか大事なのか、でも沈黙して神の言葉を待つことができないんですよ。それが大事になっていくことが日々の訓練させられるんですね。その道が合っているか間違っているかわからないけど、神様が言ってくれることをすんなり受け入れていくことが大事なんだなということに最近気付いているんです。だから

いろんな言葉が送られてきて、いろんなことを実行していくことが大事で、それは人の手を借りることもあるから、人の手を借りながらそれをやっていくことがやっぱり神様が示されている道なんだなと。

私自身も本當に苦難があつてもそこには光があるんです。私が苦しんでいるけど、そこに愛があつて、本當に母は母で動けない私を見て苦しんでいるかもしれないけれど、下着をはかしてくれたりとかいろいろあつたり、父は父で本當にそこに愛があつて、実は思い合ってくれる。本當にみんなが思い合ってくれることが、一人が犠牲になるけど周りがその分、愛に満たされる。本當に犠牲になるんです。イエス様の十字架じゃないで

すけど、一人が犠牲になることによって周りが愛に包まれながら歩める、それが幸せなんだなと。家族ってなんで家族なんだろうというの、やっぱり本當に苦しみや悲しみの時に家族の手が差し伸べられてくるというところが大事だなと。普通はできる、できなとかあるけど、できなくなるによって家族の愛が本當にわかることがある。だから私は今、父にも感謝するし母にも感謝するしお婆さんにも感謝なんです、私



“皆様、お祈り感謝します!!” 御家族と恵師。
左は送迎下さった鈴木兄(静岡聖書教室の友)

を結びつけてくれたのは、やっぱりイエスキリストがいてくれるからこそその愛に満たされていることが私の今の救いになっているんです。家族がバラバラになっていたのが一つに結びあつて。そして私がそうやっていることが大事なんです。そこに光があるんですよ。

てる子さんも本當に苦しみ悲しみを超えて、本當に大変だったかもしれないけど、みんなの支えになつていったんだなと。今泉さんもやっぱりてる子さんのその思いによって動かされている。みんな愛の中に入れられているというのが大事。愛というのは人間の愛ではなくて神の愛が充満していくことによつて、人間の愛がどんどん結びついていくんだなと。私たちが自分がこう

なっていることが不幸ではなくて、自分には本當に価値がある。意味があつて、体が動かないこと苦しいこと悲しいことがあつても、そこに神の愛が必ず差し伸べられているからこそ私は今こうして生きていられるんだなと思わされている。存在意味ということが本當に大事だなと。何かをしないと存在意味がないと思うけど、何もしなくても存在意味があるんです。一人ひとりに。それは肩書きでもなんでもなくて本當にいろんなことがここに凝縮されていて、何かのお世話になることも大事だし、できなくなることもやっぱり神様が、受け入れてその存在自体が愛なんです。(早天祈祷会、電話にて参加。薬で話し辛い中、おはようございますと。池谷兄のそのひと声は、実に美しい。朝一番の贈り物！)



一步一步ラビリンスを歩く三宅姉(左)と、るつこ姉。

ラビリンスを歩いて

(七月、祈る。ため「アンナ祈りの家」に滞在)

三宅 陽子

自分の来し方を振り
返りながら1時間余り
歩いては折り返し、神
様になぜと問わずには
おれなかつた苦しみや
痛み、また「痛み経て
真珠となりし貝の春」
in Christ.

のような神様の与えて
下さった恵みや喜びが
脳裏にひとつ、ひとつ
と走馬灯のように現わ
れては消えてゆき…

Everything is Perfect
in Christ.

私の思いや願いをは
るかに超えた素晴らし
い神様の最高最善だけ
が成つてきた…

理不尽にしか思えな
かつたことも含めてこ
れまでの…今ある…こ
れからのすべてのすべ
ては神様の完璧な愛だ
けが成就。

Glory to God! すべ
てのことが神から発し、
神によつて成り神に至
るからです。どうかこ
の神に栄光がとこしえ
にありますように(ロ
マ11:36) 神様に心か
ら感謝申し上げます。

長い年月の祈りが積
まれたアシラムにお
働き、ラビリンスに神
様の愛なる願いが成り
ますように。かけがえ
のない時を頂き本当に
ありがとうございますま
した。

(岡山県在住。四月、
Zoom阪神一日アシ
ラムにご長女と共に初
参加。以来、早天祈祷
会Zoom参加中。)

ラビリンスの美
しい幾何学模様
のように、私の人生
すべてもキリスト
にあつて美しい絵
をみるかの如く完
全完璧なのだ突
然気づかされ、神
様の憐れみ深さに
胸が熱くなり、感
謝の思いに満たさ
れました。

神様はまことに
真実なお方。どん
な時もかたときも
離れることなく共
に歩いてきて下
さつた…

修道場アシラム

感謝のお便りから

下村 徹嗣

主のみ名を賛美いた
します。

連日、猛暑日が続い
ておりますが、恵先生
をはじめご一家の皆様
元氣にお過ごしでし
ょうか。

先日の修道場アシ
ラムにおいて、私たち
夫婦はまことに大きな
恵みを得させていた
だきました。心から
感謝申しあげま
す。

アシラムセン
ターにおける早天
祈祷会に始まり、
聖書に聴き、黙想
し、祈り、神を証
し、愛の交わりを
する日々の生活こ
そ、私たちが目指
す基本的な霊的生
活であることを実
感させていただき
ました。和子お

あさまの元氣なお姿を
拝することができたこ
とも嬉しいことでした。

夏の暑さに向かう折
柄、恵先生をはじめご
一家の皆様、アシラ
ムセンターに参集され
る皆様の健康が守ら
れ、主の恵と祝福が豊
にごございますように。
(引退牧師日基金城教会)



早天祈祷会后、和子母との和やかな交わり、分かち合いの時(左から、西本姉、永岡姉、下村姉、下村姉)

アシシラムと細川先生

アシシラムセンター主事 榎本和子

1991年・記

細川泰子先生がご召天になつてから、もう一年の歳月が過ぎ去りました。先生に、わたしが初めてお目にかかったのは、今から25年も昔のことでした。今治でアシシラムを始めようとした榎本が、全国の教会に、アシシラムへの参加を呼びかけたとき、東北の盛岡からはるばる出席してくださつ

たのが、藤原直治兄でした。初めてのアシシラムで、大きな恵みを与えられた藤原兄は、翌年、細川先生や鶴丹谷先生を誘って、列車を乗り継ぎ、海を渡って、第2回今治アシシラムに参加されました。細川先生に、榎本がお出会いしたのは、その時が最初でした。その後、この3人の方々は、10月に開かれる今治アシシラムに、毎年欠かさず出席してくださるようになり、私たちはいへん励まされたものでした。



盛岡生活学園でのアシシラム。保郎師 中央。(保郎師 左に細川先生)

当時、細川先生は、ご主人とともに盛岡生活学園を経営しておられました。生活学園には、幼稚園と高校・調理師専門学校・短大が併設せられ、キリスト教主義の一貫教育が行われていましたが、やがてご主人が亡くなら

れたので、学園経営の重責は、すべて泰子先生が荷われることになり、どんなにか、お心遣いの多かったこととてございましょう。

この間、榎本の遺したテープを聞いておりますと、「私は、これまで周囲の人々のことばや行動に、心を騒がせることが多くございまして。この度、アシシラムに出席することによりまして、わたしの目のつけどころの間違つていたことを示されました。これからは、人にはなく、神様を一心に見つめて行きたいと思ひます。」という細川先生のお証があり、謙虚なお証に、榎本も感動したと語っております。

幼稚園から短大まで一貫してキリストに根ざす人格の育成を目的としておられる学園経営のためには、先生ご自身、み言葉に聴き、主のお導きとお支えを祈らずにはおられなかつたのでございましょう。
「向こう岸へ渡ろう」というみ言葉を示された榎本が、今治教会を辞任して、行くべき場所を求めていたところ、主は檜山先生を通して、

只今のアシシラムセンターの土地つきの建物を与えてくださいましたが、貧乏牧師の榎本には、購入できるような資金もなく、神様に祈り求めていたところ、榎本の志に賛同してくださる方々が資金の援助をしてくださることに、手持資金のないまま、購入契約を済ませました。

ところが、アシシラム運動は主に祝されて、またたくまにアシシラムの友の援助によつて、全額を支払うことができました。そのとき、細川先生がおひとりで購入価格の5分の1を捧げてくださったことを忘れることができません。

1977年6月、生活学園教会が建築されることになり、榎本は、その定礎式に招かれて、御用に当たらせていただきました。そのとき、月1回学園教会で説教をするようにとのご依頼を受け、講壇で着用するために、ガウンを細川先生のお宅にお預けして帰りました。
けれども、翌年7月27日、榎本はロサンゼルスで、主のもとに召されて、お約束を

果たすことはかないませんでした。が、細川泰子先生は、盛岡の地にも、是非アシシラムをと願っておられたようでした。榎本を月1回招いてくださったのも、その準備のためだったのかもしれない。

今大学を併設されて、発展の一途を辿つてられる生活学園が、創始者のご意志を受け継いで、神様のご栄光の器として用いられますようにとお祈り申しあげます。

一粒の麦、地に落ちて死なば、多くの実を結ぶべし。

(ヨハネ12章4節)

(細川先生召天1年後の記念誌に寄せて…)



天上の友を憶えて…

神様の手

オリオン座の真ん中に

星を三つ並べて置かれた

その手が わたしに伸ばされる

貝出久美子 (徳島聖書キリスト集會)

盛岡秋田アシュラム30回に向けて

榎本 恵

今年も5月の連休、盛岡秋田アシュラムのご奉仕に行かせていただいた。岩手県は、コロナの感染対策も、十分なされており、感染者数も少なかったとはいえ、「大丈夫か」と不安と恐れの中、盛岡へ行って来た。当地でお世話くださっている鶴丹谷三千代先生、角谷晋次牧師にお迎えいただき、盛岡市内にある深沢紅子「野の花」美術館で開催されていた「学校法人盛岡大学展」へお連れ頂いた。そこには細川泰子先生が、心血を注ぎ設立された学校のために集めた絵画や彫像が展示されていた。

細川泰子先生と榎本保郎牧師の深い絆が、時代を越え今も繋がっていることに驚くとともに、アシュラム運動と、この盛岡の地の深いつながりを発見できたことは、大変な喜びであった。実は、細川先生とも深いつながりのあった画家深沢紅子さんのお孫さんと台湾のアシュラム推進者 故伍秀英長老のお孫さんが結婚なさっていたということを知り、本当に神様の不思議な導きを感じている。

どうかこの盛岡の地でのアシュラムが、これからも主の祝福のうちに続けられますように。来年、盛岡秋田アシュラムは30回を数える。
(アシュラムセンター主幹牧師)



赤沼姉 岡田師 水田師 榎本師 東山師 角谷師 東山姉 金田姉



深沢紅子 野の花美術館にて 鶴丹谷先生も(左から3人目)



「楽しみに待っていたのよ!」と、黒見姉。(4月恵師家族訪問)



保郎師の説教テープを聴き、拍手し喜ぶ後宮松代姉。その後スヤスヤと眠りに。(保郎師の妹)

病床雑感より1959・4

ふとおもう
榎本保郎
しじみ貝がよいときけば
しじみを買つて来、
みかんがほしくなると
みかんを食べ、
少しからだが悪いと
医者と呼ぶ。
そんな時、しじみも買えず、
みかんも食べられず、
医者も呼べない人のことを、
ふと思う。



←6月修道場アシュラム、参加者小宮山師の誕生日!ダブルハウス庭で感謝の愛餐会。



←シメオン庭の花々を母松代姉と寄贈下さったとも姉、花を見に河村姉と。

とうとう、滋賀県もコロナ感染者の増大で、蔓延防止等重点措置の対象県になった。ワクチン接種は、私自身も無事に終えることができたのだが、なかなか情勢は厳しい。神様いつまででしょうかと祈るばかりである。
この間に、アシュラムの大切な友、黒見妙子姉を天に見送った。これほど悲しいことはない。ご自宅を解放し、「祈りの家」として用いさせていた。多くの彼女の友人がそこに来られて、アシュラムに触れていた。彼女が、プロテスタント教会からカトリックに変わられ、その生涯を信仰を持って全うされた。彼女のミドルネームは、テレサ。インドのマザーテレサからつけていたのだという。生前、マザーとの出会いを、ご自身の信仰の礎とされていた。きつとまた、天で再開を果たしているだろう。一人のこやかな笑顔を思い起こしている。
(恵)

あとがき

音もなく 開く白百合 においたつ イエスキリスト 2000年前も 丸小聰明 (呉アシュラムの友)

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり！

9月の聖書教室など		【主な問い合わせ先】 0748-33-4030 アシュラムセンター
3(金)	阪神ミニアシュラム (Zoom PM1:00)	
7(火)	Zoom聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)	
11(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)	
13(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)	
15(水)	カフェちいろば聖書入門講座 (京都・伏見区深草 PM1:30)	
17(金)	センター聖書教室 (アシュラムセンター AM11:00)	
19(日)	ちいろば牧師記念チャペルタ礼拝 (PM5:00)	
20(月)	箴言に学ぶ会 (Zoom PM10:30、PM7:30)	
21(火)	大阪聖書教室 (大阪クリスチャンセンター AM10:30)	
22(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)	
25(土)	広野祈りの家 (兵庫県三木市志染 猪瀬姉宅 PM1:00)	
27(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)	
28(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)	
10/1(金)	阪神ミニアシュラム (Zoom PM1:00)	

9月のアシュラムなど		
16(木) ~ 18(土)	修道場アシュラム④ (アンナ祈りの家、シメオン黙想の家) 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

10月のアシュラム予定		
4(月) ~ 5(火)	第45回 山陰アシュラム 奉仕者 山陰アシュラムのメンバー	080-5493-9242 遠藤誠一師
19(火)	第25回 埼玉1日アシュラム 奉仕者 岩波 久一師	048-726-2208 秋山信夫師
21(木) ~ 23(土)	加太アシュラム 奉仕者 黒田 朝師	0724-45-8235 西川武師
21(木) ~ 23(土)	修道場アシュラム⑤ 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター
28(木) ~ 29(金)	第9回 日光オーリーブの里アシュラム 奉仕者 榎本 恵師	0748-33-4030 アシュラムセンター

11月以降のアシュラム予定	
11月18(木)~20(土)	修道場アシュラム⑥

7月、尾崎恵姉宅訪問。共に祈る時を。病の中の恵姉、その姉を見守り支えておられるご家族の上に、主による希望がいつもいつも満ちますように。

“祈りの家”を願う恵姉。Zoom聖書教室で多くの友と祈りをあわせておられます。(右、尾崎ご夫妻) 撮影ご子息。



みことば

ノースカロライナ大学生
Zoom聖書と学ぶ会
榎本 空



満月を見ている弟の光太。
まんまる月を食べたがっている。
筆者画。(6才時)

イエスは言われる：行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを私のもとに迎える。こうして、私のいる所に、あなたがたもいることになる。
ヨハネ14:3

最近、須賀敦子というカトリックの作家の本をよく読んでいます。『コルシア書店の仲間たち』、『ミラノ・霧の風景』…著作は多くないが、言葉が美しく、生きている。

彼女は、20代後半になってフランスに留学し、イタリアに移り、翻訳家として活動した後、40歳を過ぎて日本に帰国した。自分の本を書き始めたのは、60を過ぎてからのことだった。彼女の言葉にどうしても惹かれるのは、そんな彼女の人生が、他人事とは思えないからだろう。

彼女は書く。「きっちり足に合った靴さえあれば、じぶんはどこまでも歩いていけるはずだ。そう心のどこかで思いつづけ、完璧な靴に出会わなかった不幸をかこちながら、私はこれまで生きてきたような気がする」。私たちは皆、「あなたがたのための場所」を求め、歩く。ここでもない、あそこでもない、彷徨う。それは確かに、孤独なものである。しかし、不思議なことに、そんな孤独にあって、私たちは、戻ってくるイエスと、出会うのだろう。「私たちは、すこしずつ、孤独が、かつて私たちを恐れさせたような荒野でないことを知ったように思う」。『コルシア書店の仲間たち』は、こんな言葉で終わっている。(次号につづく)